

## 研修報告書 No.16

所 属： 昭和大学横浜市北部病院

研修先： 渭南病院

高知県土佐清水市の渭南病院で 2023 年 1 月 2 日から 31 日まで地域医療研修をさせていただいたので、研修報告させていただきます。

地域医療研修として最も勉強になったことは一般外来を経験できたことでした。来院される患者さんのほとんどが 80 歳前後の高齢者であり、大学病院では診ることのない主訴や診る機会の少なかった転倒外傷における検査などについて学ぶことができました。100 歳でも外来に受診される患者さんに会った時は驚きました。創傷における救急時の止血処置以降の経過については大学病院では、外のクリニックに紹介状を書いていたのですが、一般外来では最後まで私自身で診察することができました。大学病院では施設に戻るような年齢の患者さんでも独居の自宅に退院となることもあり、大変驚きでした。手技としては CV 挿入を主に行うことができました。頸部からの挿入ではなく、鼠径部から、超音波を使わずに行うことは良い経験になりました。

訪問診療にも付き添うことができました。東京都・神奈川県でも厳しい介護状況は高知県ではそれ以上に厳しく、またコロナウイルスの影響もあり、訪問先の施設でも入居者を減らして対応しているところもありました。独居で生活することが難しい高齢者の患者さんを見ていくためには病院と施設で患者さんの情報共有などの連携が大切であることを学ぶことができました。

また、自宅視察に同行する機会があり、患者さんと自宅に戻り、自宅の様子をソーシャルワーカーさんや改築業者さんと話し合い、その患者さんに必要なサービスについて検討する現場を見ることができました。研修医の 2 年間は急性期の患者さんを診る機会が多く、退院後の生活や外来フォローについて考える機会が少なかったのですが、今回の訪問診療や自宅視察に同行したことで今まで考えてこなかったことにも気づくことができたので良い経験になりました。

地域医療研修で高知県のように地域医療は厳しい状況にあることを感じました。それはコロナウイルスの影響もあり、大腿骨頸部骨折や腰椎圧迫骨折のような高齢者に多い疾患についても発熱やコロナウイルス感染が確認された場合に受け入れが難しいという現状がありました。患者さんによっては高知市内の方であっても受け入れ先が見つからず、私自身の研修先である土佐清水市の病院まで受け入れ相談が来るような状況でした。手術のような高次医療を提供できる病院がそもそも少ない地域でこのような発熱や流行しているコロナウイルスのため対応困難である状況が続くのは医療崩壊と表現してもおかしくないと感じました。また、研修先の地域連携の講演会にも参加する機会がありました。コロナウイル

スの流行を受け、地域の中核となっている病院同士で発熱外来を担当する病院を決めるというような連携を行うことで、たとえ1つの病院で院内感染が起こってしまっても他の病院に一時的に発熱外来を担当してもらい地域医療の崩壊を防ぐことができるという取り組みはとても良いと感じました。その他にも物資・人材・研修などの教育の共有を行うことでより連携がスムーズになっていき、できることの幅が広がっていく可能性についても感じました。今後の展望として民間の病院だけでなく、公立病院もこの連携に参加することの必要性和難しさについて学ぶことができました。今年は寒波が例年以上に厳しく高知県では珍しいことに雪が降った日もありました。周辺の道路は山道のため上り坂や曲がり道が多く、交通という面でも降雪のような状況になると厳しいと感じました。実際に職員の中で出勤が困難な方もいました。

研修先では勉強だけでなく、美味しい食べ物をたくさん食べることができました。カツオのたたきはもちろんのこと鯖の刺身などは高知市内でも食べることはないものをいただくことができました。赤牛も食べる機会があり、とても満足でした。

以上のようにたくさんの貴重な経験を得た1ヶ月を送ることができました。来年以降、私は小児科医として新しい道を進んでいきますが、今回の地域医療研修で得た経験を活かして努力していきたいと思います。